

庵我福祉だより

しあわせ庵我

第39号

平成29年8月

発行

庵我地区
福祉推進協議会

「自治会長になっての感想」

庵我地区福祉推進協議会(下猪崎自治会長)

会長 山根孝夫



下猪崎自治会長の任を受け今年で三年目、庵我の連合会会長の任を受け半年が過ぎようとしています。その間諸先輩又周りの方々に助けられ今日があると思うところであります。

色んな会議、行事に出席してみますとこの任を受け勉強させて頂いていると痛感しています。

庵我地域には、色んな組織があり、その組織によりそれぞれ行事、事業がうまく折り重なって運営されています。

組織(私の現状認識の)

○地区(単村)

自治会、子供会、婦人の会、老人会、

○庵我地区

地区公民館、福祉推進協議会、小学校のPTA、

教育集会所、児童館

○ボランティア、趣味の会

学校支援ボランティア、庵我を知る会

○桃映地域

桃映地域公民館、中学校のPTA

一、感想

・自治会長になり、八ヶ村の会長とお話をしていますと其々の地区の伝統と言うか?しきたりと言うか?悪習慣...いやだなく 良いことだな...うらやましいなく

いろいろありますが、自分なりに納得。

・小中学校の行事に参加しますと、目前の子供たちの姿を見てみると 我が子の時代 更には、自分の児童・生徒の時代を思い出しノスタルジーな感覚に慕ってしまいます。今置かれた環境に感謝をし、文武両道に励んで、やれる事を目一杯やって欲しい。友達に流されず地に足をつけ将来を考えて欲しい。...自分の反省から

・学校支援ボランティアに参加させて頂いて、小学校の支援には頭が下がる思いです。自分のお子さん、お孫さんがおられる方は、率先垂範して参加して頂きたいです。先日のボランティアの会合では、幽霊会員と老齢化による会員の減少が言われています。登下校の見守りでは、老齢化し参加者が少なくなっています。毎日お世話になっている方々に感謝です。親御さんも子供さんに感謝の気持ちを伝えてあげて下さい。挨拶のできない子供が多い。(必ず挨拶しなさいと...)

・福祉推進協議会の参加では、民生児童委員・主任児童委員の方々には自治会は元より庵我地区をはじめ桃映地域で活躍して頂き立派だなくと感謝しています。

今年も六月三十日に実施されました施設視察研修会で舞鶴の「社会福祉法人みずなぎ学園」に行ってきました。今年で参加三回目ですが、いつも感じるの昔の暗いイメージではなく、視察に行つたどの施設も障がい者の方が持つておられる潜在能力を一杯引き出そうとされていると感じました。施設の雰囲気がとても良いです。

・庵我小学校の大運動会では、児童数が少ないが其々の学年で一生懸命練習し頑張つてやっていると感心して見えています。昔自分が走つていような感覚になってしまっています。

近年は、雨で中止になった事が昨年を含め三回ぐらいたつたと認識しています。昨年に引き続き庵我地区の統一要望にもグラウンドの改良(水はけが悪い為)の要望書を提出しております。

・庵我を知る会での歴史探訪では、色んなことを教えて頂き、庵我地域に住んでいてもいつも感心させられる事ばかりです。皆様の博学には恐れいります。立派な人が沢山居られたこと、今も沢山居られる事に誇りを持っています。

・桃映地域公民館についてですが、先日の七月一日に設立記念式典がありました。協議会には様々ありますが、要約しますと

経過

昨年度より大正学区と庵我学区の地区公民館と自治会長が中心となり設立準備委員会を本格推進した。(平成二十七度より構想は、ありました。)問題になったことは地区公民館で庵我は充分機能している。事務所が桃映地域体育館内で距離的に遠すぎる等々が議論されました。結果的には時代の流れだと私は思う。福知山市で残っているのは、あと南陵地域だけと聞いています。

目的

地域住民のために社会教育を推進する拠点施設としての中心的な役割を担う。法律(社会教育法)に基づいた、社会教育施設。

・目的は、庵我地区公民館と基本的には同じと解釈しています。エリアが庵我地区から桃映地域に広がっただけでは。

運営

桃映地域公民館運営協議会を組織し運営していきます。地域公民館には二名の市の嘱託員が配置されます。本年度は少人数で立ち上げていきます。

庵我地区委員

・運営協議会会長...大嶋 正徳

・地区公民館...濱 友啓 植村 葉

・自治会長...日高 勝弘 山根 孝夫

大正区も同人数

・大正地区は、庵我の人口の三倍、立地条件でも庵我から桃映地域の事務所は遠すぎる。庵我にある施設を利用して参加、地区公民館行事を中心にしそれ以上あまり増やさない。地域公民館と上手に付き合い庵我地区の住民に貢献できる様にしたい。

二、結び

いろいろと思う所を書いてきましたが、自分の置かれた環境、年齢を考え、健康である事に感謝し「自分の為、人の為、社会の為」に貢献できる事が一番幸せであると思う所でありませぬ。

これからは皆様方のご指導・ご鞭撻を頂き努力して参りますので宜しくお願い致します。

あいさつで心をむすぶ

明るい庵我

地域ぐるみであいさつの輪を広げましょう

社会に貢献できる人を目指して



庵我小学校 校長 今村 大輔

庵我小学校に赴任して、早四ヶ月が過ぎました。この間、保護者や地域の方々から多くのご支援を頂き感謝しております。庵我小学校の子どもたちは「多くの方に支えられ、愛されているんだな」と感じるこの多い四ヶ月でした。

今年は今文部科学省人権教育総合推進地域事業（夢・絆事業）の研究指定最終年度と言うこともあり、おもてなし券の取組やあいさつロードの取組、夢を育む出会の活動など様々なことでもお世話になっており、この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

さて七月に入り、九州で集中豪雨があり、甚大な被害が報道されています。亡くなられた方やけがをされ

た方、自宅を失った方など、映像を見るたびに心を痛くしています。一日でも早く日常の生活が取り戻せることを願っております。

平成二十三年三月十一日に起こった未曾有の大災害、東日本大震災からすでに六年が過ぎました。私は同年七月に京都府の災害派遣チームの一員として、福島県新地町に入り支援活動をおこなった経験があります。私が派遣された七月は、巨大地震が発生してまだ四ヶ月しか経っておらず、行くところ行くところに生々しい傷跡が残っていました。

私が所属したのは、教育支援チームであり、新地町の尚英（しょうえい）中学校で先生方のお手伝いをさせていただきました。尚英中学校も震災直後は、避難所になり、多くの方々が避難されていたそうですが、私が行った七月には既に仮設住宅が整備されていたので、避難所としては使われていませんでした。尚英中学校では、数学や理科の勉強を教えましたが、教室内には違う制服を着た生徒も何人かいました。後で先生に尋ねると新地町に避難して来た家族のお子さんだと言うことでした。この子たちは、肉親や家を失うなど、大変な経験をしたにも拘わらず、元気に明るく振る舞っていたのが印象的でした。

移動の先々では瓦礫の撤去や家の洗浄などのボランティアの姿も数多く見られ、全国から多くの人たちが「少しでも役立つことがあれば」と駆けてつけていました。私も派遣中、瓦礫を撤去するボランティアに参加しました。そこには、被災された家族の方もいらつしゃって「ありがとうございます。」「本当に助かります。」「と一人一人に頭を下げられています。そんな撤去作業をしているときです。泥の中から一枚の写真を見つけたのです。写真には、何人かの人物が写っており、それを家族の方に見せるととても喜ばれ、写真を撮ったときの思い出を語ってくださいました。被災された方は、家とともに写真など思い出の品も津波に奪われてしまっていたのです。写真一枚ですが貴重な思い出をお渡しすることができ、喜びを感じました。

七月のこの季節を迎えるといつも思い出す忘れられない出来事です。あれから六年、福知山でも二度の水害があり、ここ庵



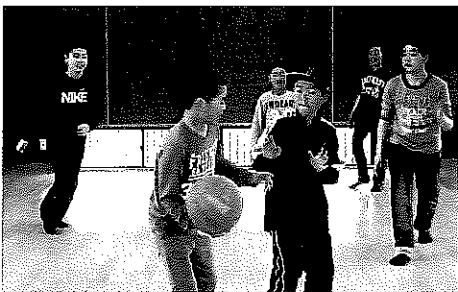
我でも被害がありました。（平成二十五年九月の十八号台風の時には私の家も床下浸水をして大変な思いをしました。）その度、少しでもできることがあれば、と言う思いで福知山でもボランティアをしてみました。

庵我小学校では、「自分を大切に、人のため社会のために尽くす人材の育成」と言う学校教育目標を掲げ、日々教育を進めています。小学生の今は、まだボランティアをするのも難しいかもしれませんが、将来大きくなり人々が困っているときには、その痛みを感じる心を持ち、社会のために自分の力を発揮することのできる人に育ててほしいと思っております。学校だけではなく地域というフィールドでも子どもたちを鍛え・育むことで、将来、自立し貢献できる人になってほしいと考えています。そのため小学生の今は、せつせ、せつせと種をまいているのです。そうして育った子どもたちが、将来の庵我を支え、しあわせ庵我につながると考えるからです。

元気いっぱい の庵我っ子

庵我児童館職員 山下 智佐登

庵我児童館にやってくる二ヶ月が経ち、ようやく慣れてきた頃です。毎日のように、元気いっばいの子ども達が児童館に遊びに来てくれるので、いつもパワーをもらっています。なので、私も全力で向き合っており、勝負を挑まれると手加減しません。特にバスケットなんかは！時には子どもたちの方が詳しい事もあって、そんな時は優しく教えてくれるし、ダメな事は自分たちで注意し合う姿を見て、思いやりのある優しい子が多いと感じました。これからはルールを守って、みんな仲良く遊んでほしいです。



平成二十九年度
庵我地区福祉推進協議会
役員名簿

顧問	(市議会議員)
顧問	(市議会議員)
顧問	(庵我小学校校長)
会長	(庵我自治会長兼会会長)
副会長	(下猪崎自治会長)
事務局長	(公民館長)
副事務局長	(主任児童委員)
庶務	(安井・管養民生児童委員)
会	(中村団地自治会長)
会	(庵我児童館館長)
会	(猪崎民生児童委員)
会	(下猪崎民生児童委員)
会計	(池部民生児童委員)
会計	(城山民生児童委員)
会計	(中村団地民生児童委員)
会計	(庵我老連会長)
会計	(中民生児童委員)

心肺蘇生講習を受けて

池部 塩 見 美和子
とにかく、「受けてよかった!」

場所は庵我会館二階ホール、講習時間は一時間程度。講師は、現役の救急隊員さん二人でした。講習はマイクなしで元氣よく丁寧に、経験談や冗談を交え分かりやすく、頭と体を使って、救命の大切さを教わりました。
今の今まで元氣だったのに、突然に心臓と呼吸が止まった。私の主人もそうでした。そういう事が身近



沈むよう強く押します。

そもそも骨の上から心臓を収縮させるのですから、肋骨は折れてしまうことが多いそうです。(罪に問われることはない)しかしあくまで命優先、ためらわずにぐっと押し込む事で心臓から血液が送り出されます。

私がやらなくても誰かが...と逡巡している間はないのです。救急車が到着するまで近くに居合わせたい人達と協力してとにかく命が最優先。やった方が絶対に良いのが心肺蘇生なのです。

また、「心肺停止」

以上に多いのが「事故やケガ、病氣などで倒れた方」です。その時の接し方や対処法なども教わりました。それは、ザワザワと倒れた方を取り囲んで、不安にさせない。手を取り大丈夫ですよと励まし続けるこ



に、いつなんどき起きるかもしれない。

講習を受けることで、落ち着いて救命に何か一つでも関わる「勇気と覚悟」が持てました。

心肺蘇生法は、胸骨圧迫(昔は心臓マッサージと言っていた様な気がします)。胸の真ん中をギュッキュツと一分間に百回位の速さで、大人なら胸が五センチは



と、できれば安全な場所に移動させること、そして自分自身の安全にも配慮することなどです。

また、熱中症予防についても話を聞くことができました。

今や合言葉のように「熱中症」と叫ばれています。屋外で運動や作業をした時に熱中症にかかるイメージですが、そうばかりでもないようです。正しい知識をもち予防をすれば熱中症を防ぐことができます。

①のどが渴かなくても十分に水分と塩分を補給する。市販の経口補水液もお勧めですが糖分が多く含まれている製品もあるので常用する場合は薄めて飲むのもポイントになるそうです。もちろんアルコールはNGです。

②エアコンや扇風機を使って室温(二八度)を適切に保つ。特に高齢になると体温の調整機能が低下するので室温の上昇に気が付きにくく周りにいる人の気配りが大切とのこと。

③適度に休憩をする。ふだんエアコンの効いた職場や、残業などで睡眠不足の方などは特に注意し、こまめに休憩をとってください。

一時間と短い講習会でしたが、初めて知ることも多く、緊急事態でもパニックにならず、冷静に行動できるよう、日頃から講習を受け知っておくことが大切だと感じました。そしてもっと多くの方に講習を受けていただきたいと思いました。受講できて本当に良かったです。

引揚記念館を訪れて

下猪崎 秦 ひろみ

去る六月三十日、庵我地区福祉推進協の施設研修に参加しました。見学場所は、舞鶴引揚記念館および障害者施設みずなぎ学園でした。私が強く心に残ったのは、引揚記念館です。

引揚記念館へは、これまでに何度も訪れていますが、一昨年にこちらが、「エネスコ世界記憶遺産」になり、敷地もいっそう広くなり、わかりやすい展示になっていました。

戦争は昭和二十年八月に終わったはずなのに、大陸に居た多くの日本人男性は、敗戦国の罪なき罰を背負わされて、ロシアの貴重な労働力として長きにわたって極寒の地シベリアで俘虜として止めおかれた



のです。舞鶴の港に最終の抑留者運搬船がついたのは、昭和三十三年にもなっていました。

「屍移す馬櫓の哀しき木立かな」在留者の句。



展示の中には、抑留者のく

らしが再現されていました。ギラギラした目つきでカチカチの黒パンを等分に測る同僚を見つめる瘦せこけた何人もの目、目、目。その傍らにも銃を向けて見張るロシア兵の厳しい目がありました。一切れの黒

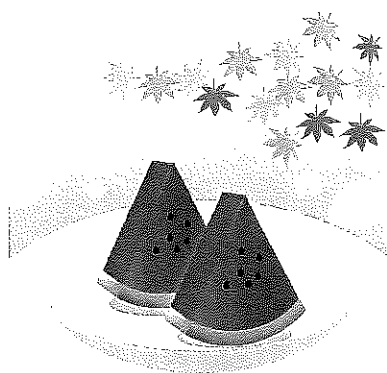
パンとうすいスープのみの乏しい食事、誰もが栄養失調になる中での強制労働、マイナス三十度の地で、亡くなる人も多かったのです。六十六万人の人々がやっと日本に帰り終わったのは、実に十三年間もかかりました。こんな生活を余儀なくされた方々のご苦労を思うと、涙がこぼれます。

引揚記念館を見学して、戦争がひき起こしたたくさんさんの悲劇を二度とくり返してはいけなさいとの思いを、いっそう強くしました。

市街地に近いこの庵我の地にあっても、高齢化は進み戦争を知らない私たちもまた、高齢者の仲間です。だからこそ、住みやすい庵我をよりよくする為

に、隣・近所・地域の連携を強く保っていかねばなりません。

今回の視察見学計画実施にあたり、お世話になった役員の皆様にご心より御礼を申し上げます。



編集後記

しあわせ庵我平成二十九年八月第三十九号の発行に際して、たくさんの方々の皆様にご協力いただき誠にありがとうございます。ご意見ご寄稿がありましたら、是非お寄せ下さい。

元気で明るい地域作りに一層のご協力をお願いいたします。
平成二十九年八月

編集委員

- 日高 勝弘
- 足立 衛
- 塩見美和子
- 内田 成広
- 塩見 雅邦